

近畿六大学春季リーグ戦

今季リーグ戦は、五シーズン連続優勝と強さを誇る甲南大が緒戦に大経大に破れ、優勝の行くえは全く予想がつかず混戦模様となった。しかし、うまさ

Scoreboard for 4月6日, 4月9日, 4月10日, 4月13日. Includes teams like 大経大, 甲南大, 神商大, 神外大 and their respective scores.

Scoreboard for 4月16日, 4月22日, 4月23日, 4月28日. Includes teams like 神外大, 甲南大, 神外大, 近大 and their respective scores.

Scoreboard for 5月4日, 5月8日. Includes teams like 甲南大, 近大, 和 大 and their respective scores.

ベストナイン
(投) 福山小四郎 (甲)
(捕) 楠田 規夫 (甲)
(一) 宮崎 正利 (甲)
(二) 牧井 亘 (商)
(三) 西口 守 (甲)
(遊) 杉田 啓治 (近)
(外) 小林 茂 (甲)
大上 兼一 (甲)
田中 耕治 (近)

Summary table with columns for team names (甲南大, 近畿大, 和 大, etc.), wins, losses, and win percentage.

第22回全日本大学準硬式野球大会

本大会は高松宮殿下、同妃殿下のご臨席を得て岩手県陸前高田市で開催された。本大会の決勝は史上初の九州地区同士の対戦となり九州大会二位の福岡大学が2対1で熊本大学を破り九州大会の雪辱と共に八年振り二度目の優勝を飾った。

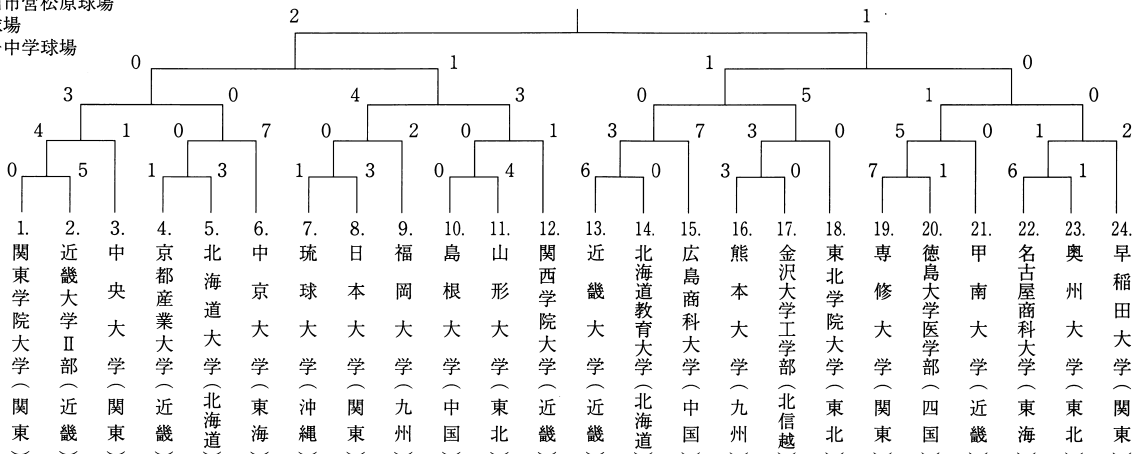
二回敵失と松本福の右前適時打で先制した専大は四回二死より、高崎、小林武の左前打と小林茂の右越二塁打などで三点を追加した。甲南は再三再四塁をにぎわすが決定打なく得点できず、結局八安打を発ちながら完封負けした。

マニスタ打小林茂2(専)
【専】 4 3 0 2 0
振 球 犠 盗 併
【甲】 8 0 0 1 0

Scoreboard for 専修大学 vs 甲南大学. Includes batting order and statistics for both teams.

昭和45年8月2日~7日
陸前高田市菅松原球場
同第二球場
高田第一中学校球場

優勝
福岡大学



近畿六大学秋季リーグ戦

四十五年度秋季リーグは九月一日より橘球場において開幕した。リーグ戦中にほとんど好天気恵まれ、試合の進行もスムーズに進んだので、まずまずの成功を取めたと思う。しかし反面、試合内容は芳しいものとは言えず、全般的に活気の少ない低調なリーグ戦だったとも言える。これにはいろいろと原因があるが、まず第一の大きなものとしては各校の部員数の減少であろう。これはこの二、三年特に激しいようだし、これからも当分の間続きそうなので、各校とも頭の痛い問題である。ところで今季優勝した近畿大学には賞讃を送りたい。部員数が十名足らずにもかかわらず、小浜主将の下で一丸となってプレーをしたことが、この無欲の勝利につながったのだろう。優勝候補の甲南大、神外大は今一つの粘り強さの不足で敗れた試合がいくつもあったのは残念である。春季リーグの活躍を期待したい次第です。

◇9月1日

大経大	0	0	0	3	0	0	0	0	3
甲南大	0	0	0	0	0	1	0	1	0

(経)森本一穂垣・宮城
(甲)的崎一和田
▽三塁打大塚(甲)
▽二塁打稲垣(経)大上・荒牧(甲)

◇9月3日

甲南大	0	0	0	1	0	0	2	0	1
大経大	0	0	0	0	0	0	0	0	0

(甲)千・的崎一和田
(経)森本・篠原一穂垣
▽二塁打和田(甲)

◇9月7日

神外大	0	0	0	0	0	0	0	0	0
甲南大	0	0	0	0	0	1	0	0	×

(神)足達一大森
(甲)的崎一和田

◇9月9日

甲南大	0	0	0	0	0	0	2	0	0
神外大	0	0	0	0	0	0	0	2	×

(甲)的崎・千一和田
(外)馬場・足達一大森
▽二塁打荒牧(甲)

◇9月10日

神商大	0	0	0	0	0	0	0	0	0
甲南大	0	0	1	0	0	0	0	2	×

(商)笠田一山口
(甲)福山・千一和田
▽三塁打荒牧(甲)
▽二塁打福山(甲)

◇9月12日

甲南大	0	0	0	1	0	1	0	1	0
神商大	0	0	0	0	0	0	0	0	0

(甲)的崎一和田
(商)笠田一山口
▽二塁打大上(甲)笠田(商)

◇10月19日

和 大	0	0	0	0	0	0	0	0	0
甲南大	0	0	0	0	0	1	×	1	×

(和)堺一沢村
(甲)千・的崎一和田
▽本塁打大上(甲)
▽二塁打堺(和)

◇10月21日

甲南大	1	0	2	0	0	1	0	2	0
和 大	0	0	0	0	0	0	0	0	0

(甲)元山・宮崎一和田
(和)砂村一沢村
▽二塁打堺(和)

◇10月22日

近 大	0	0	0	0	0	0	0	0	0
甲南大	2	0	1	0	0	1	0	0	×

(近)下仲一小浜
(甲)千・的崎一和田

◇10月24日

甲南大	0	0	2	0	0	0	0	0	0
近畿大	0	0	0	0	0	2	0	0	×

(甲)的崎一和田
(近)甲斐一小浜

回顧録

昭和46年卒業 福山 小四郎
現役時代に強く印象に残っている思い出といえば、3年生のときの全日本大会。一回戦の対戦相手は、関東リーグ優勝の早稲田大学。口には出せないものの、一回戦で負けてすぐに帰ってくるものと決めてかかっていた。勿論、パンツの着替えも準備せず、ところが案に因らずや早稲田大学を破るやその勢いで勝ち進んで、とうとう最終日迄勝ち残ってしまいました。ゲンをかつぐ気持ちもあってバリバリになったパンツを履いて過ごしたその感触は今も残っています。

さて、翌年は岩手県の陸前高田市での全日本大会、一日がかりの旅程でようやく着いたものの、一回戦で専修大学に5対0で完敗、なんとも辛い遠征でした。

卒業以来30年がたとうとしています、いまだに準硬0Bの草野球チーム、甲球クラブで現役です。「40才になったらやめよう」と始めたものの、いまだに誰一人としてやめようとは言い出しません。「よくもこれだけ野球が好きなのだ」と感心するものの、ほんとうに野球の好きなだけで集まっているとは思えない節もあります。集まるメンバーは、現役時代の4年間を共通の目標と夢をもって汗を流した体験を共有しています。その目標をある程度実現させたという達成感をも共有しています。その仲間意識と野球に打ちこんだ若い時代の記憶を今も草野球を通して確認しあっているのかも知れません。目標に向かって汗を流した仲間たちに今やその面影はありません。三振しようが失策しようが笑って楽しんでしまうただの草野球チーム。過去の対戦の記憶もす

ぐに消えてしまいます。野球というスポーツに限らず若い時代に真剣になにかに打ち込む夢と目標を掲げて取り組むことは一生の記憶となり、自信となりひいては一生の仲間や友達を残してくれるすばらしい財産となることを身をもって実感しています。能力の限界を引き出そうと目をギラつかせて野球に取り組む現役諸君の姿——これを甲南大準硬式野球部の伝統としていただきたく願っています。
(2000年3月30日)